

令和3年度

印西市内遺跡発掘調査報告書

むかいしんでん
向新田遺跡(第4地点2次)

むかいしんでん
向新田遺跡(第4地点3次)

むかいしんでん
向新田遺跡(第4地点4次)

べんてんまえ
弁天前遺跡

ほりじりだい
堀尻台遺跡

はらひがし
原東遺跡

ふなお
船尾貝塚

2023

印西市教育委員会

例 言

1. 本書は、令和3年度国庫補助を受けて実施した、向新田遺跡(第4地点2次)、向新田遺跡(第4地点3次)、向新田遺跡(第4地点4次)、弁天前遺跡、堀尻台遺跡、原東遺跡、船尾貝塚の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は印西市教育委員会が令和3年度に実施し、整理作業と原稿執筆は印西市より委託を受けた公益財団法人印旛郡市文化財センターが令和4年度に実施した。
3. 調査組織は以下の通りである。

●発掘調査(令和3年度)

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査課長	鈴木 圭一	印西市教育委員会教育部生涯学習課長
調査事務	石川 美智代	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長
	木村 崇史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査
	根本 岳史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主任学芸員
	松本 実久	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主事

●整理作業・原稿執筆(令和4年度)

調査主体者	大木 弘	印西市教育委員会教育長
調査事務	鈴木 圭一	印西市教育委員会教育部生涯学習課長
	石川 美智代	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係長
	海老原 康人	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主査
	根本 岳史	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主任学芸員
	今本 昂佑	印西市教育委員会教育部生涯学習課文化係主事
調査受託者	圓城寺 一雄	公益財団法人印旛郡市文化財センター代表理事
整理担当者	大村 冬樹	公益財団法人印旛郡市文化財センター主任調査研究員

4. (1) 遺跡の所在地、(2) 調査の種別、調査面積、調査期間、(3) 調査担当者(4) 調査に至る経緯は、以下のとおりである。

向新田遺跡(第4地点2次)(センターコード:09-158)

(1) 印西市武西字向新田222-8 (2) 本調査 41.65㎡ 令和3年4月20日 (3) 根本岳史 (4) 個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査を行った。

向新田遺跡(第4地点3次)(センターコード:09-159)

(1) 印西市武西字向新田222-5 (2) 本調査 90.2㎡ 令和3年4月21日~4月22日 (3) 根本岳史 (4) 個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査を行った。

向新田遺跡(第4地点4次)(センターコード:09-160)

(1) 印西市武西字向新田222-10 (2) 本調査 86.97㎡ 令和3年4月23日 (3) 根本岳史 (4) 個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査を行った。

弁天前遺跡（センターコード：09-161）

（1）印西市草深字弁天前1007-2、1007-3の各一部（2）確認調査 上層25㎡/221.27㎡ 令和3年7月12日（3）根本岳史（4）個人住宅建設に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

堀尻台遺跡（センターコード：09-162）

（1）印西市瀬戸字堀尻台748-1の一部（2）確認調査 上層37㎡/474.77㎡ 令和3年8月24日（3）根本岳史（4）資材置場工事に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

原東遺跡（センターコード：09-163）

（1）印西市草深字原2488、2489（2）確認調査 上層162㎡/1307.88㎡ 令和3年9月30日～10月6日（3）根本岳史（4）宅地造成に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

船尾貝塚（センターコード：09-164）

（1）印西市船穂1218-2（2）確認調査 上層60㎡/496.59㎡ 令和3年11月10日～11月12日（3）根本岳史（4）宅地造成に先立ち、文化財保護法第93条の届出が提出されたため、埋蔵文化財の取扱いについての協議を行い、本調査の必要性を判断するために確認調査を行った。

5. 整理作業、報告書原稿並びに印刷製本は、令和4年度国庫補助事業及び県費補助事業として実施した。
6. 本書は、大村が執筆及び編集を行った。そのうち、縄文土器については喜多裕明、奈良・平安時代土器については、小牧美知枝の協力を得た。
7. 本書で使用した写真は、遺構は調査担当者、遺物は有限会社スギハラが撮影した。
8. 調査原図、遺物実測図、写真、出土遺物は、印西市教育委員会が保管している。
9. 発掘調査から報告書刊行まで、文化庁、千葉県教育庁教育振興部文化財課の指導を受けた。

凡 例

1. 第1、2、3図は国土地理院発行の地形図（1：25,000）『小林』を使用した。また、第4、11、13、15、17図は『印西市都市計画図』（1：2,500）を使用した。
2. 掲載図面及び遺物の縮尺は、各挿図中に示した。
3. 挿図中の方位は、磁北を示す。
4. トレンチ脇の負数は、現地表面から遺構確認面までの深さ（単位：cm）を示す。
5. 表中の（ ）は推定値、〈 〉は残存値を示している。
6. 挿図中のスクリーントーンの用例は以下の通りである。

 縄文時代土坑

本文目次

第1章 周辺の遺跡	1
第2章 向新田遺跡（第4地点第2・3・4次）	5
第1節 遺跡の立地	5
第2節 調査の方法	5
第3節 検出した遺構と遺物	5
第3章 弁天前遺跡	11
第1節 遺跡の立地	11
第2節 調査の方法	11
第3節 検出した遺構と遺物	11
第4章 堀尻台遺跡	12
第1節 遺跡の立地	12
第2節 調査の方法	12
第3節 検出した遺構と遺物	12
第5章 原東遺跡	14
第1節 遺跡の立地	14
第2節 調査の方法	14
第3節 検出した遺構と遺物	14
第6章 船尾貝塚	16
第1節 遺跡の立地	16
第2節 調査の方法	16
第3節 検出した遺構と遺物	16
第7章 まとめ	18

挿図目次

第1図 向新田遺跡・船尾貝塚周辺の遺跡（S=1：25,000）	2
第2図 弁天前遺跡・原東遺跡周辺の遺跡（S=1：25,000）	3
第3図 堀尻台遺跡周辺の遺跡（S=1：25,000）	4
第4図 向新田遺跡位置図（S=1：2,500）	5
第5図 向新田遺跡遺構配置図（S=1：200）	6
第6図 向新田遺跡1号住居跡（S=1：80）	7
第7図 向新田遺跡1号住居跡出土遺物（S=1：4）	7
第8図 向新田遺跡2号住居跡（S=1：80）	8
第9図 向新田遺跡2号住居跡出土遺物（S=1：2・1：4）	9
第10図 向新田遺跡表採遺物（S=1：3・1：4）	9
第11図 弁天前遺跡位置図（S=1：2,500）	11
第12図 弁天前遺跡トレンチ配置図（S=1：200）	12
第13図 堀尻台遺跡位置図（S=1：2,500）	13
第14図 堀尻台遺跡トレンチ配置図（S=1：200）	14
第15図 原東遺跡位置図（S=1：2,500）	15

第16図	原東遺跡トレンチ配置図 (S=1:400)	15
第17図	船尾貝塚位置図 (S=1:2,500)	16
第18図	船尾貝塚トレンチ配置図 (S=1:200)	17
第19図	船尾貝塚出土遺物 (S=1:3)	17

表目次

第1表	向新田遺跡 1号住居跡観察表	6
第2表	向新田遺跡 2号住居跡観察表	8
第3表	向新田遺跡 1号住居跡出土遺物観察表	10
第4表	向新田遺跡 2号住居跡出土遺物観察表	10
第5表	向新田遺跡 表採遺物観察表	10
第6表	船尾貝塚 出土遺物観察表	17

写真図版目次

図版1	向新田遺跡 調査前風景(南から) 1号住居跡 遺構検出状況(南西から) 1号住居跡 セクション(東から) 1号住居跡 完掘状況(南から) 1号住居跡A-A' セクション(東から) 1号住居跡A-A' セクション(東から) 1号住居跡B-B' セクション(南から) 1号住居跡B-B' セクション(南から)
図版2	2号住居跡 遺物出土状況(南西から) 2号住居跡 遺物出土状況(南西から) 2号住居跡 遺物出土状況(西から) 2号住居跡 完掘状況(南から) 弁天前遺跡 調査前風景(南西から) 2トレンチ(南西から) 4トレンチ(南西から) 埋戻し後(西から)
図版3	堀尻台遺跡 調査前風景(南から) 調査前風景(南西から) 作業風景(北から) 1トレンチ(南から) 2トレンチ(南から) 3トレンチ(南から) 3トレンチ(南西から) 4トレンチ(南から)
図版4	原東遺跡 調査前風景(北東から) 1トレンチ遺構検出状況(西から) 2トレンチ(南から) 3トレンチ(南から) 6トレンチ(南から) 8トレンチ(南から) 9トレンチ(南から) 11トレンチ(南から)
図版5	船尾貝塚 調査前風景(西から) 重機稼働状況(西から) 1トレンチ(西から) 2トレンチ(西から) 3トレンチ(西から) 4トレンチ(西から) 5トレンチ(西から) 6トレンチ(西から)
図版6	向新田遺跡1号住居跡出土遺物 向新田遺跡2号住居跡出土遺物(1)
図版7	向新田遺跡2号住居跡出土遺物(2) 向新田遺跡表採遺物 船尾貝塚出土遺物

第1章 周辺の遺跡

印西市は千葉県北部のほぼ中央に位置する。周囲を利根川・印旛沼・手賀沼に囲まれており、これらの湖沼に流入する大小河川により台地両岸が浸食を受け、下総地域特有の複雑な樹枝状台地を形成している。

令和3年度は、5か所の遺跡を対象に調査を実施した。まず、**向新田遺跡**（第1図-1）は北総線千葉ニュータウン中央駅の南西約1.6kmに位置し、南側を流れる神崎川とその支流によって開析された標高23～25mの台地上に位置する。縄文時代前期、弥生時代、古墳時代、平安、近世の集落跡及び牧と考えられている。千葉県文化財センターと印西市で多数の調査例があり、特に古墳時代前期の集落としては竪穴住居跡83軒、建物跡5棟が確認されている。

向新田遺跡の南側には**安養寺遺跡**（第1図-6）が位置し、縄文時代中期及び弥生時代の包蔵地とされている。神崎川流域に面した台地上を中心に、多数の遺跡が所在している。遺跡南西側の**武西千駄苜遺跡**（第1図-7）では、縄文時代前期および弥生時代後期の遺物が大量に出土している。その北側の**木曾地遺跡**（第1図-8）では縄文時代中期後半の住居跡1軒及び古墳時代前期の住居跡6軒、縄文時代の土坑1基、中・近世の土坑3基を検出している。

向新田遺跡西隣の**北ノ台遺跡**（第1図-9）では、古墳時代前期の竪穴住居跡2軒が検出され、東側の**船尾町田遺跡**（第1図-10）では円墳2基、前方後円墳1基が確認されているほか、古墳時代前期の竪穴住居跡が21軒検出されている。北東に位置する**鳴神山遺跡**（第1図-11）では古墳時代前期の竪穴住居跡が23軒検出されているほか、隣接する**白井谷奥遺跡**（第1図-12）に続く古代の道路跡が検出されている。白井谷奥遺跡では過去に印西市教育委員会と千葉県文化財センターによる調査が行われており、縄文時代陥し穴や弥生時代竪穴住居跡、奈良・平安時代竪穴住居跡、中世地下式坑、近世溝状遺構など、縄文時代から近世に至る遺跡であることが判明している。

弁天前遺跡（第1図-22）は縄文時代早期と後期の包蔵地とされているが、南西に位置する**船尾白幡遺跡**（第1図-13）は旧石器から中近世までの長きにわたる時代の遺構が検出されている。谷を挟んで西側に近接する鳴神山遺跡と白井谷奥遺跡とともに、下総国印旛郡船穂郷の中心的な集落と考えられている。印旛沼西部北岸地域の大規模な遺跡としては**松崎Ⅰ遺跡**（第2図-14）が挙げられ、縄文時代早期後半、茅山下層式を中心とした炉穴群と弥生時代末から古墳時代前期にかけての集落と方形周溝墓が展開する。**松崎Ⅱ遺跡**（第2図-15）は弥生時代末から古墳時代前期を中心とする集落である。**松崎Ⅲ遺跡**（第2図-16）は縄文時代早期前葉と後葉、中期後葉の竪穴住居跡、奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の居館など、幅広い年代の遺構がみられる。**松崎Ⅳ遺跡**（第2図-17）は弥生時代後期の集落が展開し、**松崎Ⅴ遺跡**（第2図-18）では縄文時代早期後葉の炉穴群と、古墳時代前期、奈良・平安時代の住居跡が検出されている。**前戸遺跡**（第2図-19）では奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出され、同時期の土師器と須恵器が出土している。**東海道遺跡**（第2図-20）では奈良・平安時代住居跡や土坑、ピットが検出されている。この前戸遺跡と東海道遺跡は隣接する位置関係にあり、ともに古墳時代終末期から平安時代を中心とする同一集落と捉えられる。南西に位置する**多々羅田遺跡**（第1図-21）の調査では近世磁器のほか、時期不明の土師器が数点出土している。また、北西の**アラク山遺跡**（第1図-22）からは古墳時代前期とみられる竪穴住居跡が検出され、それに伴い土師器が出土したほか、縄文時代後期の深鉢や近世陶器が出土している。

堀尻台遺跡（第3図-3）は縄文時代早期および古墳時代、奈良・平安時代の包蔵地とされているが、南西に**大木台遺跡**（第3図-23）が位置し、2号墳は直径18mと小型の円墳であるが、須恵器や土師器をはじめとして多数の円筒埴輪や形象埴輪が出土した。北東には**吉高大谷遺跡**（第3図-24）が位置し、7m規模



第1図 向新田遺跡・船尾貝塚周辺の遺跡 (S=1 : 25,000)



第2図 弁天前遺跡・原東遺跡周辺の遺跡 (S=1:25,000)



第3図 掘尻台遺跡周辺の遺跡 (S=1:25,000)

の大型住居跡が存在する集落も見られる。

原東遺跡(第2図-4)は縄文時代前期の包蔵地とされており、南側3kmにはトヶ前遺跡(第2図-25)が位置する。縄文時代早期から弥生時代後期を主体とした包含層を有し、縄文時代4軒、弥生時代13軒、奈良・平安時代3軒の住居跡が検出されている。また、周辺の遺跡としては馬見台遺跡(第2図-26)からは縄文土器、弥生土器、土師器が出土しており、馬々台遺跡(第2図-27)ではこれらに加えナイフ形石器が出土している。また、岩戸広台遺跡A地区からは縄文早期1軒、後期5軒、古墳時代13軒、奈良・平安時代41軒の住居跡が検出されている。岩戸広台遺跡B地区からも縄文時代住居跡10軒、古墳時代住居跡6軒、奈良・平安時代住居跡4軒が検出されている。

船尾貝塚(第2図-5)は北・西を谷津に囲まれ、南には新川が流れる狭溢な台地上に位置する。船尾貝塚の西側に位置する油免遺跡(第1図-29)は、古墳時代中期・後期と奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出されている。古墳としては新川を挟んで対岸の八千代市に所在する神野芝山古墳群(第1図-30)で人物埴輪や石枕、刀子が発見されている。北西側の西根遺跡(第1図-31)は縄文から平安時代にかけての遺跡で、水路跡から木鋤などの木製品が出土している。

第2章 向新田遺跡（第4地点第2・3・4次）

第1節 遺跡の立地（第4図）

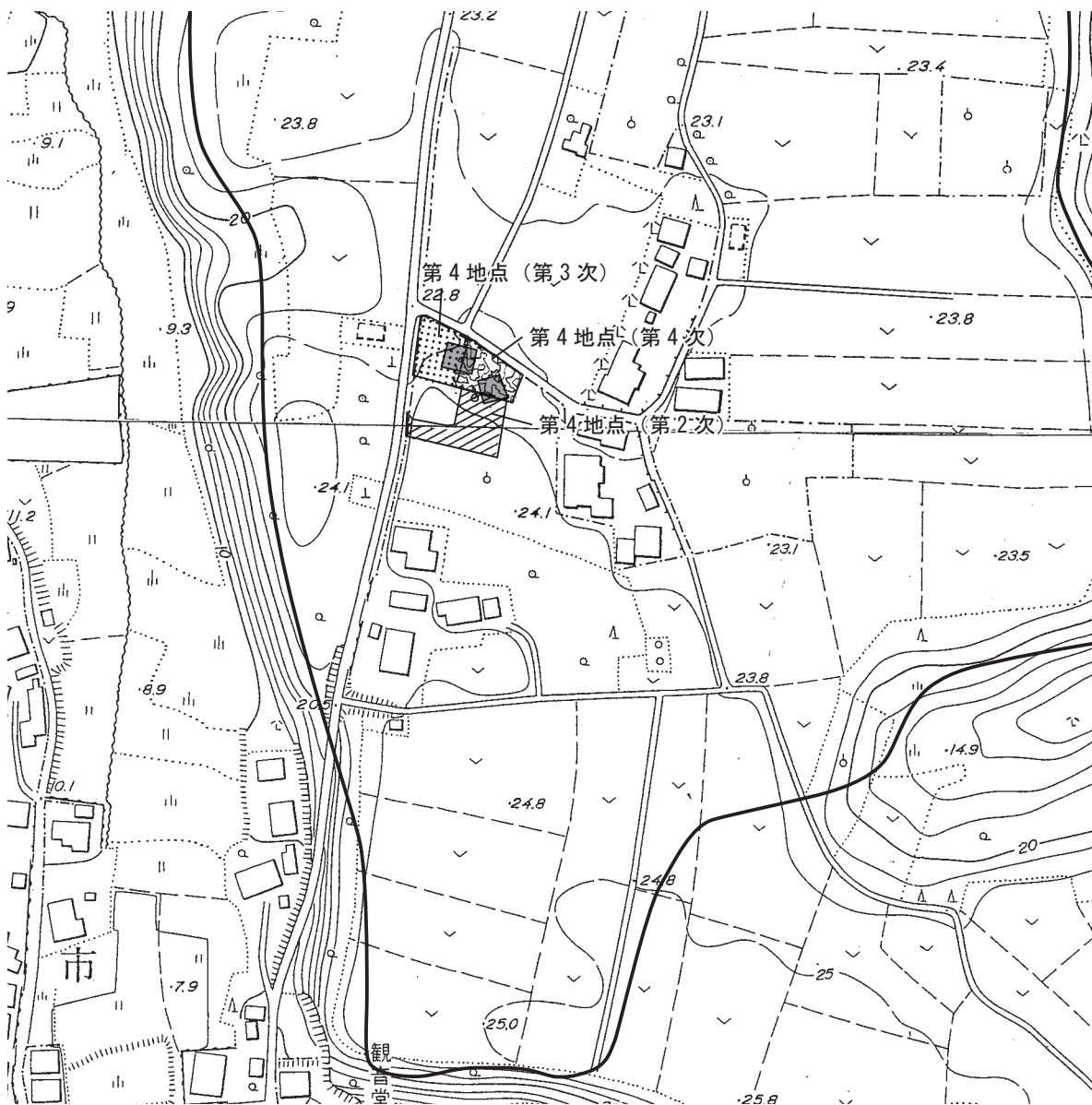
遺跡は神崎川の北岸約0.75km、北総線の千葉ニュータウン中央駅から南西約1.5kmの標高約24mの台地上に所在する。周辺は神崎川とその支流によって東西を開析され、南に張り出す台地の形状をしている。

第2節 調査の方法

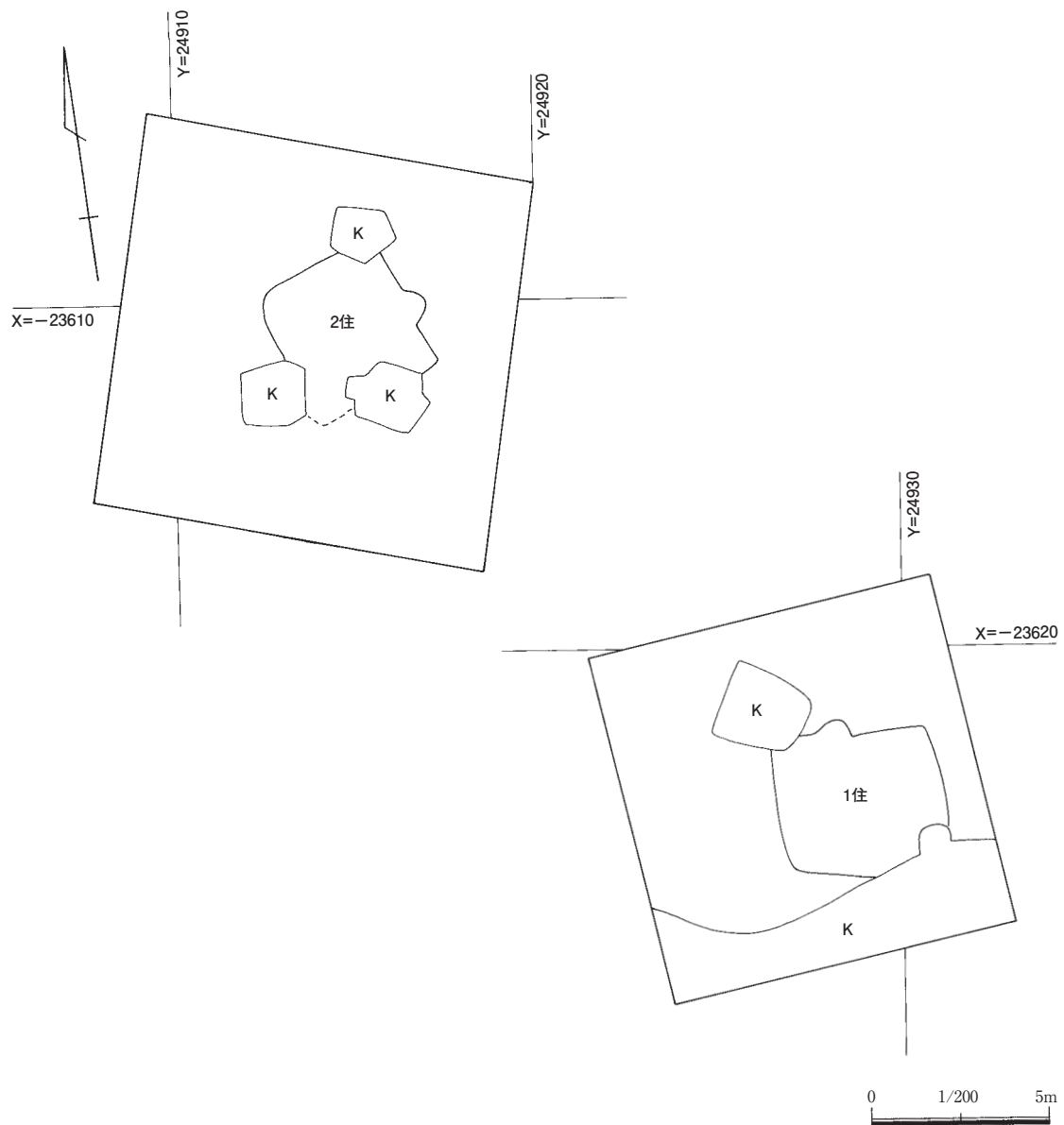
昨年度の確認調査結果に基づき、1号住居跡および2号住居跡の本調査を実施した。重機による表土除去の後、人力により遺構検出作業を行った。作業の進捗に伴い適宜写真撮影を行い、遺構平面図（縮尺1/20）、遺物出土状況図（縮尺1/20）及び土層堆積図（縮尺1/20）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第5～10図、図版1・6・7）

奈良・平安時代竪穴住居跡を2軒検出した。1号住居跡は中央から西側が大きく攪乱の影響を受けている。カマドは北側に確認され、柱穴は認められなかった。2号住居跡も中央から西側は大きく攪乱の影響を受けているが、カマドの残存状況は良好である。遺物は奈良・平安時代土師器・須恵器と中近世陶磁器が出土した。



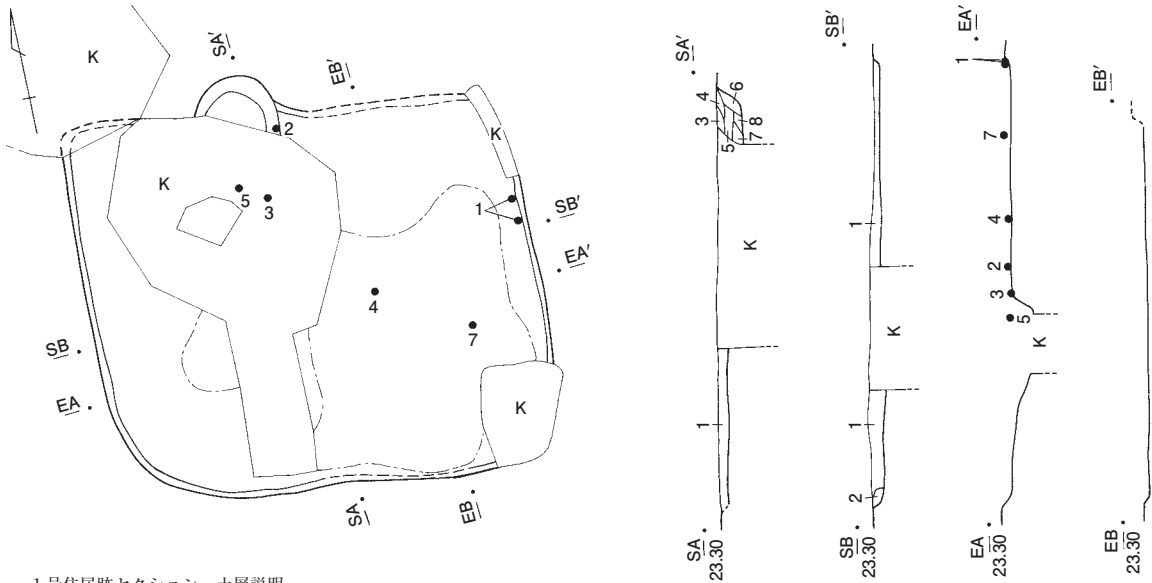
第4図 向新田遺跡位置図 (S=1:2,500)



第5図 向新田遺跡遺構配置図 (S=1:200)

第1表 1号住居跡観察表

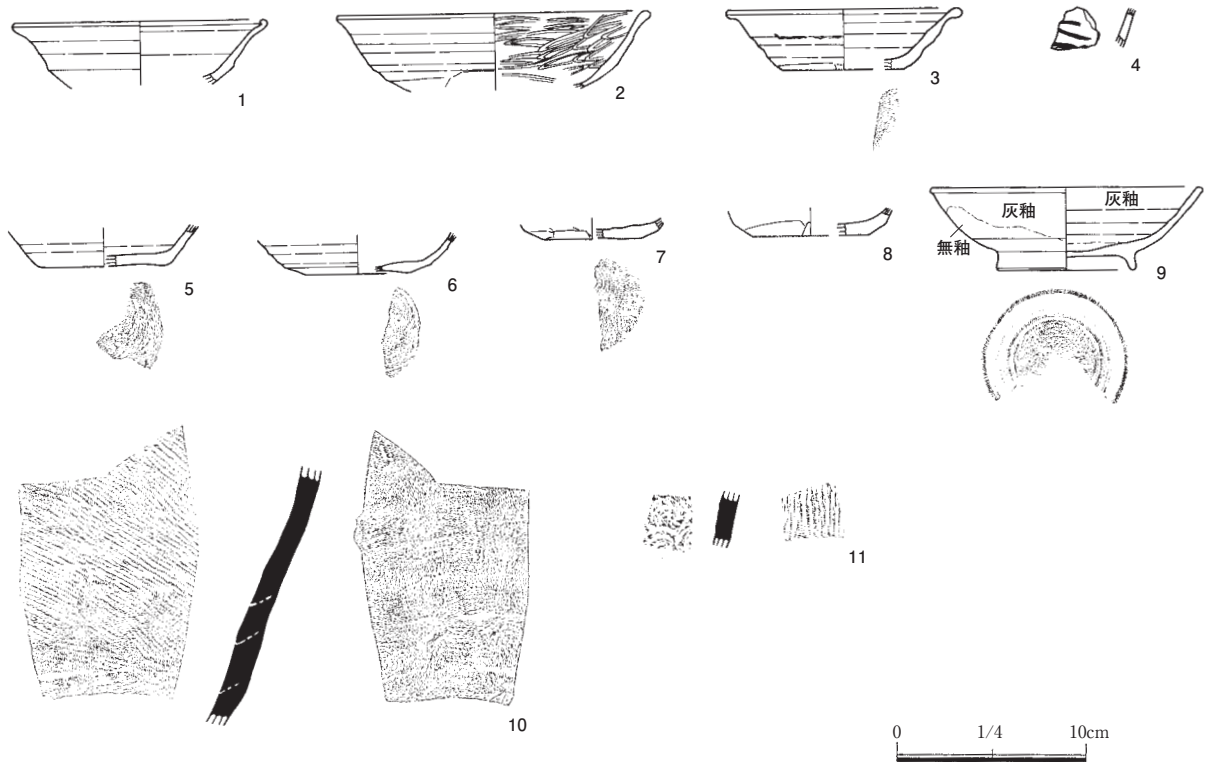
遺構No	調査種別	主軸	規模	カマド	
				煙道部	調査区内検出せず
1号住居跡	本調査	N-6°-W	長軸4.7m×短軸4.2m×深さ0.03~0.10m	煙道部	調査区内検出せず
			壁高	火床部	-
	東壁		0.03m	周溝規模	長さ 16m
	西壁		0.10m		深さ 5-12cm



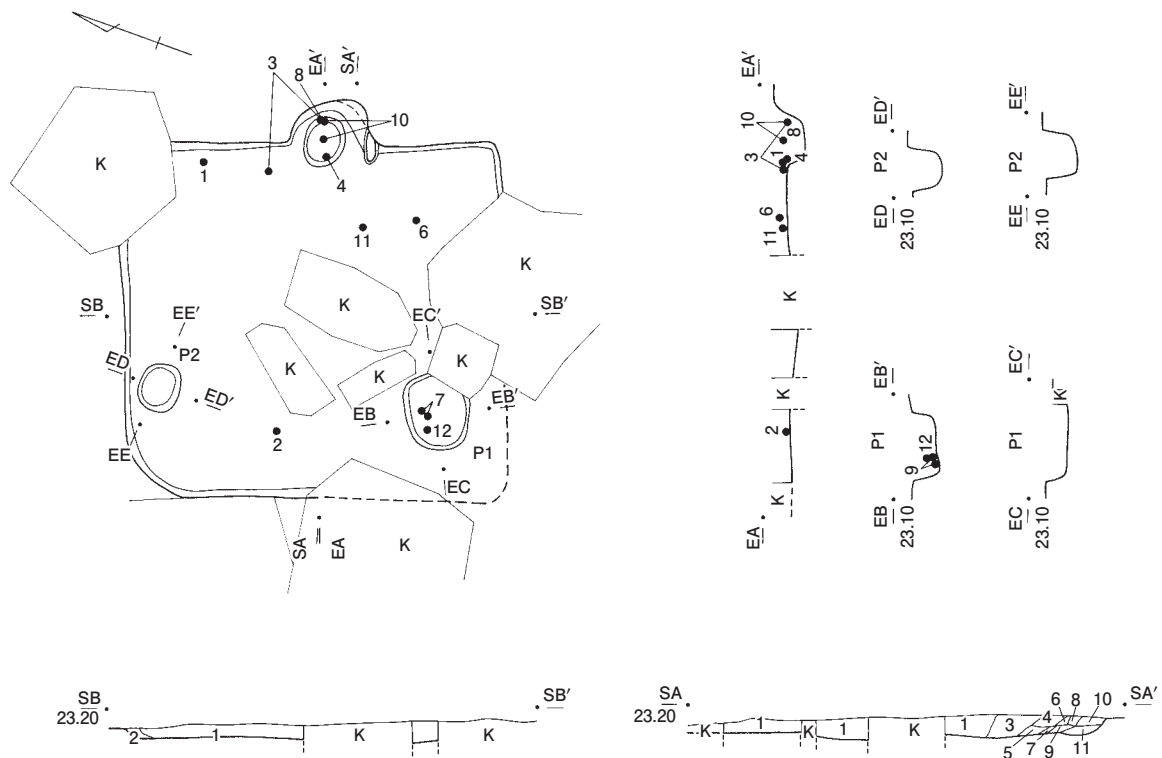
1号住居跡セクション 土層説明

1. 暗褐色土 ロームブロック5~10mm少量。しまりやや強、粘性やや強
2. 黒黄褐色土 しまりやや弱、粘性弱、ソフトローム粒多量
3. 暗赤褐色土 しまりやや弱、粘性弱、焼土多量
4. 灰褐色土 しまりやや弱、粘性中、山砂多量
5. 赤褐色土 しまり弱、粘性強、焼土主体
6. 暗赤褐色土 しまり中、粘性中、山砂少量
7. 暗褐色土 しまりやや強、粘性やや強、焼土少量
8. 暗赤褐色土 しまりやや弱、粘性やや弱、焼土多量

第6図 向新田遺跡1号住居跡 (S=1:80)



第7図 向新田遺跡1号住居跡出土遺物 (S=1:4)



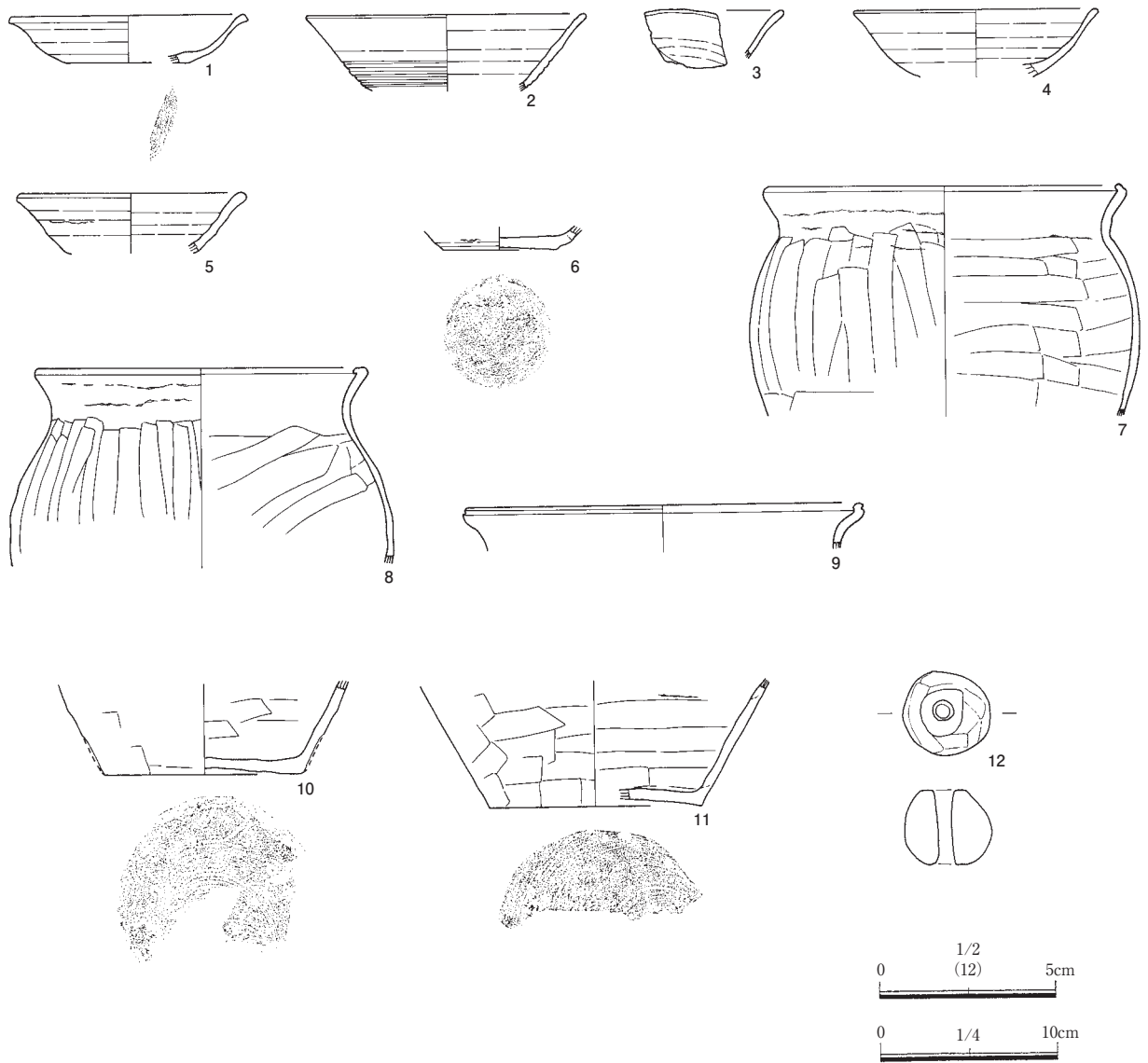
2号住居跡セクション 土層説明

1. 暗褐色土 しまり中、粘性中 焼土・炭化物微量
2. 褐色土 しまり中、粘性中
3. 灰褐色土 しまり強、粘性強、焼土・炭化物微量
4. 暗赤褐色土 しまりやや強、粘性やや強 焼土少量、炭化物微量
5. 暗褐色土 しまりやや強、粘性中、ローム粒・焼土・炭化物微量
6. 暗黒褐色土 しまりやや強、粘性やや強、ロームブロック10~20mm少量
7. 暗赤褐色土 しまりやや弱、粘性やや弱
8. 橙褐色土 しまりやや弱、粘性中、焼土微量
9. 褐色土 しまり中、粘性中、焼土微量
10. 暗黒褐色土 しまり弱、粘性弱、焼土・炭化物微量
11. 明黄褐色土 しまり強、粘性強、ローム主体（地山）

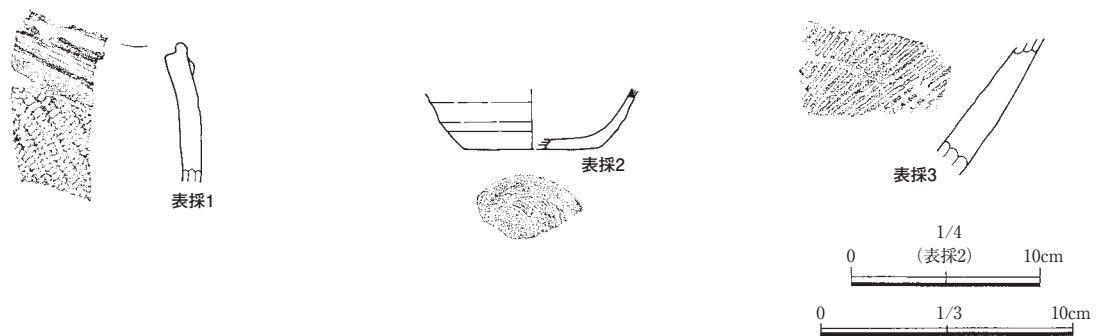
第8図 向新田遺跡2号住居跡 (S=1:80)

第2表 2号住居跡観察表

遺構No.	調査種別	主軸	規模	カマド	
2号住居跡	本調査	N-76°E	長軸4.7m×短軸3.1m×深さ0.06~0.24m	煙道部	調査区内検出せず
			壁高	火床部	長軸104cm×84cm
	東壁		0.07m	周溝規模	長さ 15.5m
	西壁		0.10m		深さ 8~12cm



第9図 向新田遺跡2号住居跡出土遺物 (S=1:2・1:4)



第10図 向新田遺跡表採遺物 (S=1:3・1:4)

第3表 向新田遺跡 1号住居跡出土遺物観察表

掲載No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	土師器 坏	口径 (13.5) cm 器高 (3.4) cm 底径 - cm	ロクロ成形。体部外面：ロクロナデ 下部部：回転ヘラケズリ 被熱のため器面剥離	石英・長石粒子少、赤色粒子少	赤褐色	良	口縁部～体部
2	土師器 坏	口径 (16.6) cm 器高 (4.1) cm 底径 - cm	ロクロ成形。内面：ヘラミガキ 体部外面：ロクロナデ 下部部：手持ちヘラケズリ	石英・長石粒子多	赤褐色	良	口縁部～体部
3	土師器 坏	口径 (12.6) cm 器高 3.2 cm 底径 (6.4) cm	ロクロ成形。体部外面：ロクロナデ 下部部：手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り後無調整	石英・長石粒子多、赤色粒子微量、白色針状物微量	赤褐色	良	口縁部～底部
4	土師器 坏	口径 - cm 器高 - cm 底径 - cm	内外面：ナデ	石英・長石粒子微量、赤色粒子微量	にぶい橙色	良	体部 外面墨書
5	土師器 坏	口径 - cm 器高 (2.1) cm 底径 (7.0) cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 体部外面：ロクロナデ 底部：回転糸切り後無調整	石英・長石粒子少、赤色粒子少量	橙色	良	体部～底部
6	土師器 坏	口径 - cm 器高 (2.1) cm 底径 (5.4) cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 外面下部部：回転ヘラケズリ 底部：回転糸切り後周辺部回転ヘラケズリ	石英・長石粒子少、赤色粒子少	薄黒褐色	良	底部
7	土師器 坏	口径 - cm 器高 (1.2) cm 底径 (5.0) cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 外面下部部：手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切り後手持ちヘラケズリ	石英・長石粒子少、赤色粒子微量	にぶい赤褐色	良	底部
8	土師器 坏	口径 - cm 器高 (1.5) cm 底径 (6.0) cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 外面下部部：手持ちヘラケズリ 底部：手持ちヘラケズリ	石英・長石粒子多、赤色粒子少	赤褐色	良	底部
9	陶器 高台付坏	口径 14.4 cm 器高 4.4 cm 台部径 - cm	灰釉 外面下端：回転ヘラケズリ 漬け掛け 高台三日月形 底部回転ヘラケズリ	石英・長石粒子少、黒色粒子少量	灰黄色	良	猿投カ
10	須恵器 甕	口径 - cm 器高 - cm 底径 - cm	内面：同心円状の当具痕、その後ナデ 外面：平行タタキ、外面下端：ヘラケズリ	石英・長石粒子少、黒色粒子少	オリープ黒色	良	胴部 猿投産
11	須恵器 甕	口径 - cm 器高 - cm 底径 - cm	内面：同心円状当具 外面：タタキ	石英・長石粒子少、黒色粒子微量	灰色	良	胴部

第4表 向新田遺跡 2号住居跡出土遺物観察表

掲載No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	土師器 坏	口径 (13.6) cm 器高 (2.7) cm 底径 (7.0) cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 外面下部部：回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ	石英・長石粒子多、赤色粒子少、白色針状物微量	赤褐色	良	口縁部～底部
2	土師器 坏	口径 (16.0) cm 器高 (4.3) cm 底径 - cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 外面：沈線5条あり	石英・長石粒子少、赤色粒子少、白色針状物微量	赤褐色	良	口縁部～体部
3	土師器 坏	口径 - cm 器高 - cm 底径 - cm	ロクロ成形。内外面：ロクロナデ	石英・長石粒子多、赤色粒子少	赤褐色	良	口縁部
4	土師器 坏	口径 (14.0) cm 器高 (3.8) cm 底径 - cm	ロクロ成形。内外面：ロクロナデ 被熱あり	石英・長石粒子多、赤色粒子少	にぶい橙色	良	口縁部～体部
5	土師器 坏	口径 (13.0) cm 器高 (3.4) cm 底径 - cm	ロクロ成形。内外面：ロクロナデ 被熱あり	石英・長石粒子多、白色針状物微量	にぶい橙色	良	口縁部～体部
6	土師器 坏	口径 - cm 器高 (1.3) cm 底径 6.3 cm	ロクロ成形。内面：ロクロナデ 体部下部未調整 底部：回転糸切り後無調整	石英・長石粒子多、赤色粒子少	黒褐色	良	底部
7	土師器 甕	口径 (20.6) cm 器高 (13.1) cm 底径 - cm	口縁部：ヨコナデ 内面：ヘラナデ 外面：胴部上半縦位ヘラケズリ、下半横位ヘラケズリ	石英・長石粒子多、赤色粒子少、白色針状物微量	褐色	良	口縁部～胴部
8	土師器 甕	口径 (19.0) cm 器高 (11.2) cm 底径 - cm	口縁部：ヨコナデ 内面：ヘラナデ後ナデ 外面：縦位ヘラケズリ	石英・長石粒子多、赤色粒子少	にぶい橙褐色	良	口縁部～胴部
9	土師器 甕	口径 (22.6) cm 器高 (2.6) cm 底径 - cm	口縁部：ヨコナデ	石英・長石粒子多、赤色粒子微量	暗褐色	良	口縁部
10	土師器 甕	口径 - cm 器高 (5.2) cm 底径 11.5 cm	内面：ヘラナデ 外面：横位ヘラケズリ 底部：回転糸切り後周辺部手持ちヘラケズリ 被熱あり	石英・長石粒子多、赤色粒子少量	にぶい橙色	良	底部～胴部
11	土師器 甕	口径 - cm 器高 (7.2) cm 底径 (12.0) cm	内面：ヘラナデ 外面：横位ヘラケズリ 底部：回転糸切り後無調整	石英・長石粒子多、赤色粒子少量	にぶい赤褐色	良	底部～胴部下端
12	土玉	径2.4×2.5×2.1cm	重量11.6g				

第5表 向新田遺跡 表採遺物観察表

掲載No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	口径 - cm 器高 - cm 底径 - cm	波状口縁。口唇部は多裁竹管による有段状。口縁部に沿って隆線を貼付。胴部に単節LR縄文を有する。	石英・長石粒子多、白色針状物微量	暗褐色	良	胴部 堀之内I式
2	土師器 坏	口径 - cm 器高 (3.2) cm 底径 (7.0) cm	内面：ロクロナデ 体部下部：回転ヘラケズリ 底部：回転糸切り後周縁部回転ヘラケズリ 被熱あり	石英・長石粒子多、赤色粒子微量、白色針状物微量	にぶい赤褐色	良	底部 奈良・平安時代
3	陶器 播鉢	口径 - cm 器高 - cm 底径 - cm	ロクロ成形 錆釉	石英・長石粒子多	赤褐色	良	近世カ

第3章 弁天前遺跡

第1節 遺跡の立地（第11図）

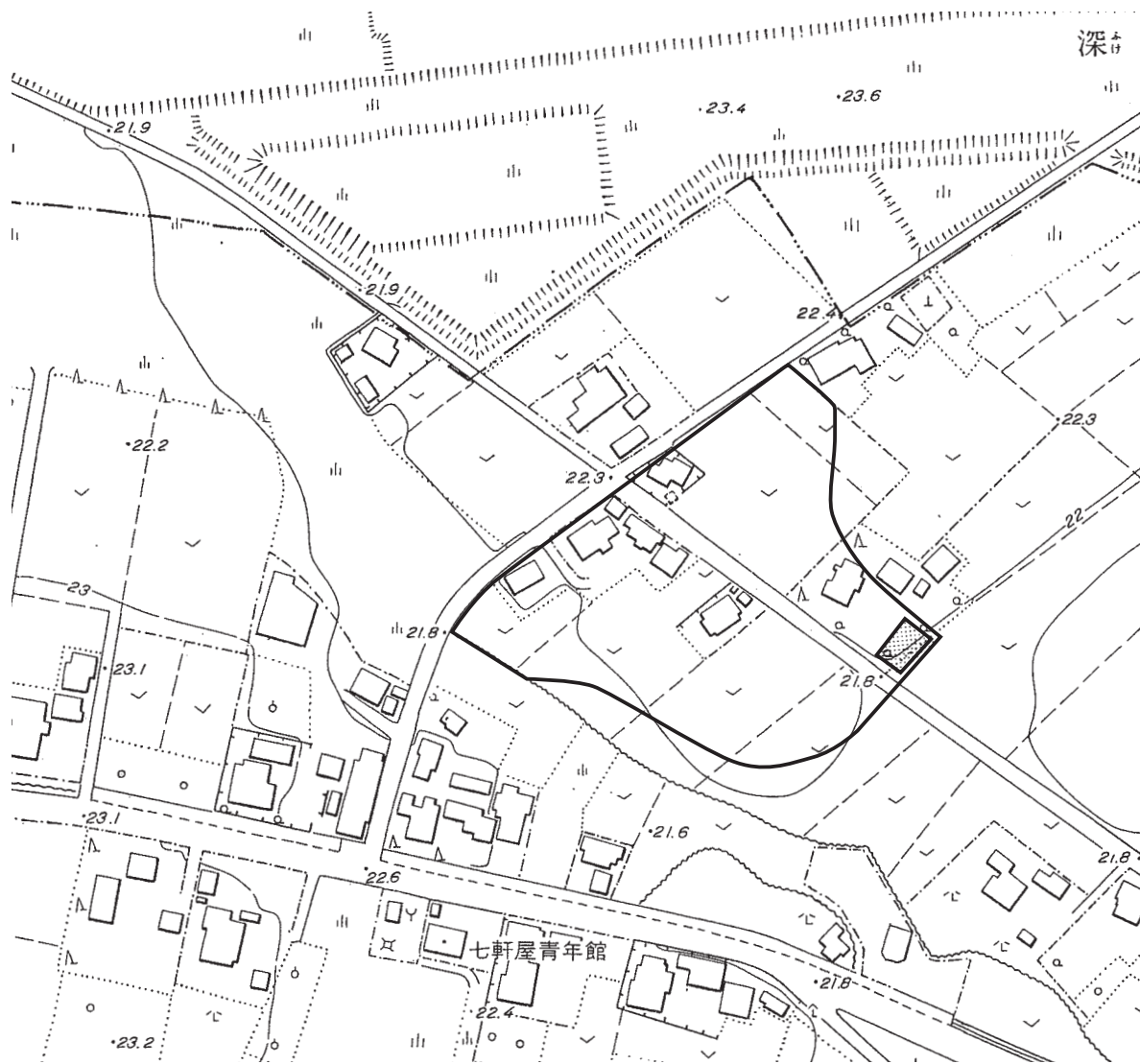
遺跡は北総線印西牧の原駅から西に約2km、師戸川の北岸約0.13km、標高約22mの台地上に所在する。

第2節 調査の方法

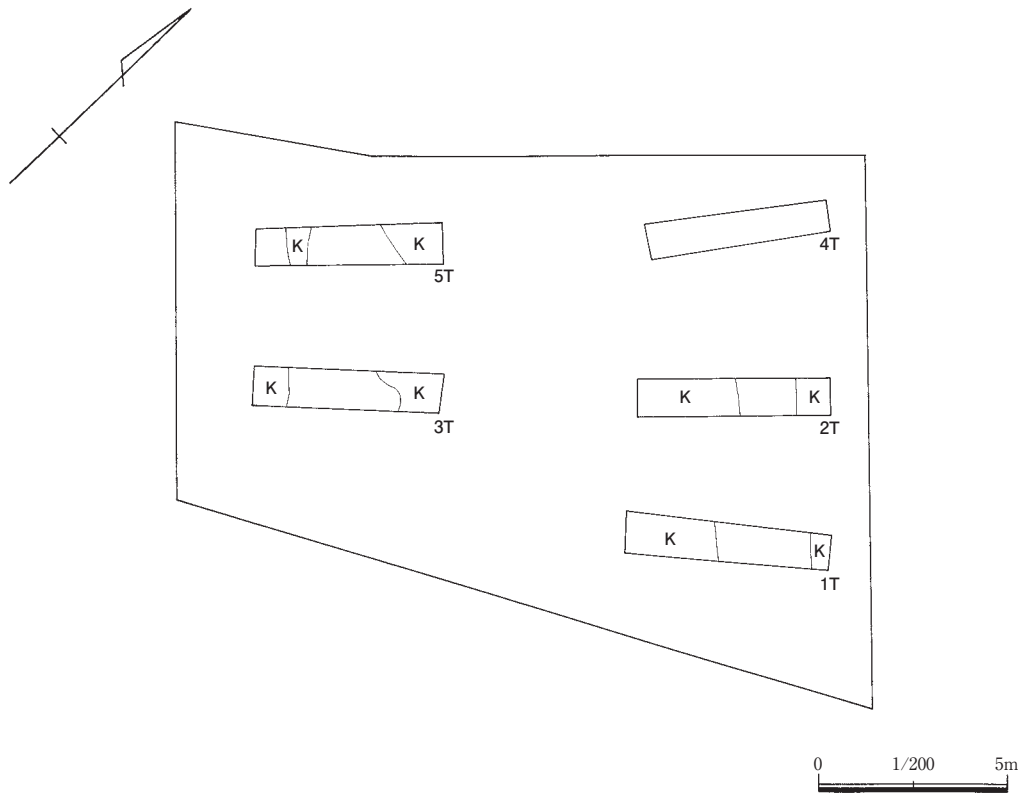
トレンチを任意に5本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図(縮尺1/100)を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第12図・図版2）

遺構は検出されなかった。全面がトレンチャーによる攪乱を受けていた。遺物は中近世の陶磁器と瓦が出土したが、小片のため図示しえない。



第11図 弁天前遺跡位置図 (S=1:2,500)



第12図 弁天前遺跡トレンチ配置図 (S=1:200)

第4章 堀尻台遺跡

第1節 遺跡の立地 (第13図)

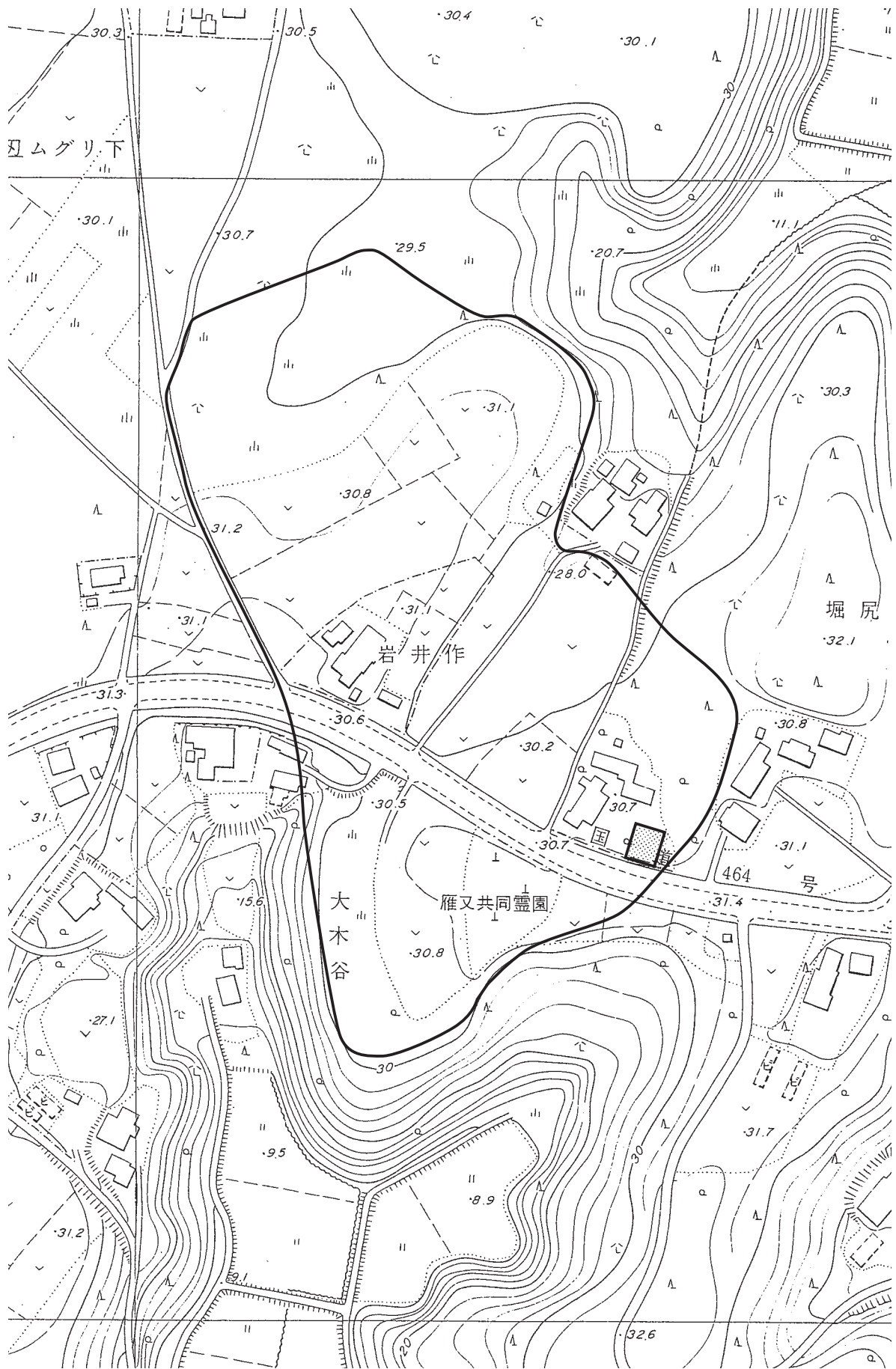
遺跡は西印旛沼の北岸約1.1km、標高約30mの台地上に位置する。調査地点は主要地方道佐倉印西線の瀬戸交差点から600m西に所在する。

第2節 調査の方法

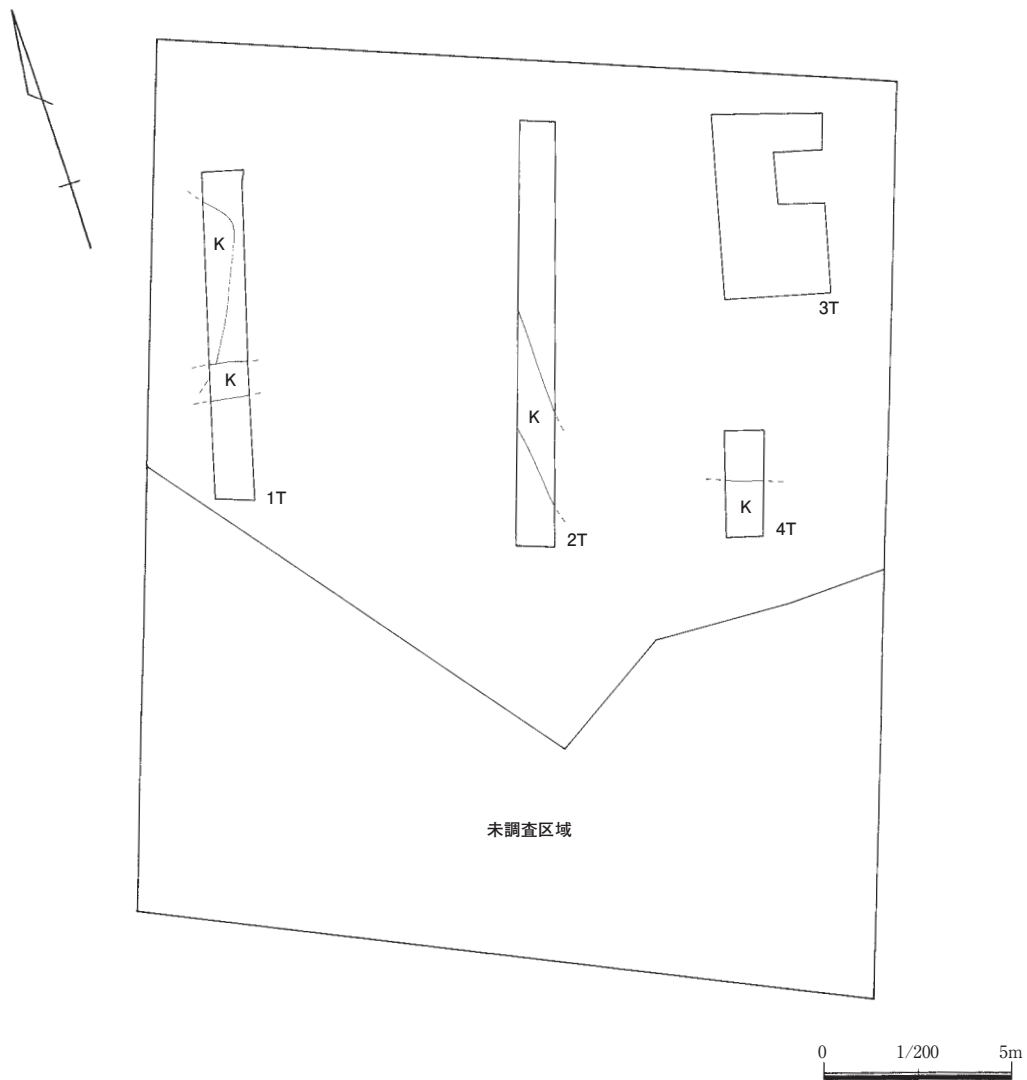
トレンチを任意に4本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図(縮尺 1/100)を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物 (第14図・図版3)

調査区西側を中心に攪乱を受けており、遺構は検出されなかった。遺物は縄文土器、古墳時代埴輪、中近世の陶磁器・銭貨が出土したが、小片のため図示しえない。



第13図 堀尻台遺跡位置図 (S=1:2,500)



第14図 堀尻台遺跡トレンチ配置図 (S=1:200)

第5章 原東遺跡

第1節 遺跡の立地 (第15図)

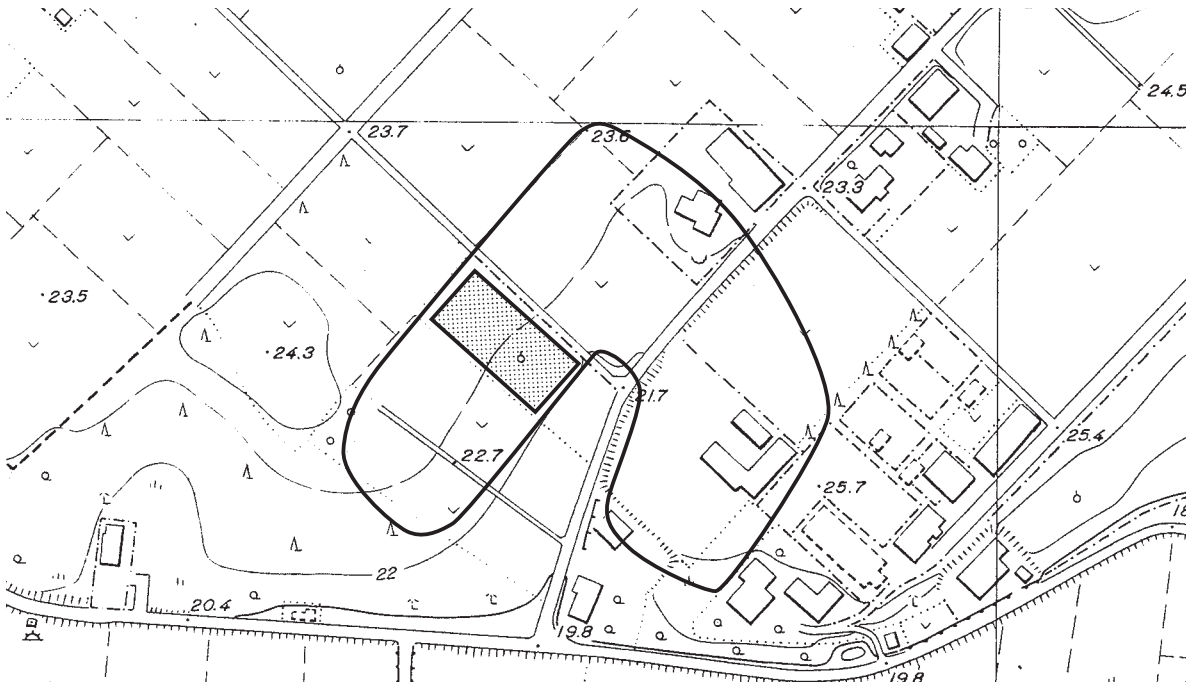
遺跡は西印旛沼の北4km、師戸川左岸約0.1km、標高21~23mの台地および緩斜面上に所在する。

第2節 調査の方法

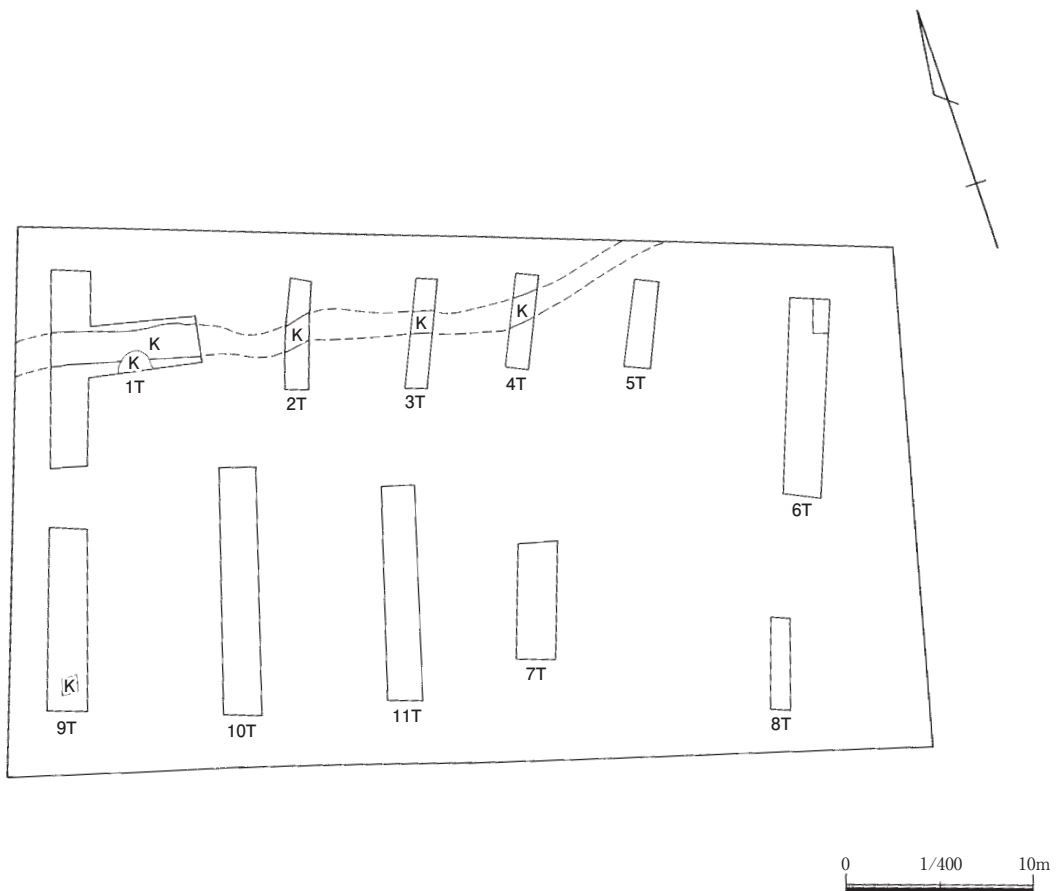
トレンチを任意に11本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図(縮尺 1/200)を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物 (第16図・図版4)

遺構は検出されなかった。近現代の暗渠とみられる溝が1条検出された。遺物は縄文土器、中近世の陶磁器が出土したが、小片のため図示しえない。



第15図 原東遺跡位置図 (S=1 : 2,500)



第16図 原東遺跡トレンチ配置図 (S=1 : 400)

第6章 船尾貝塚

第1節 遺跡の立地（第17図）

遺跡は西印旛沼の北西、神崎川北岸約0.9km、標高約23～24mの台地および緩斜面上に位置する。調査地点は主要地方道千葉竜ヶ崎線から300m東に位置する。

第2節 調査の方法

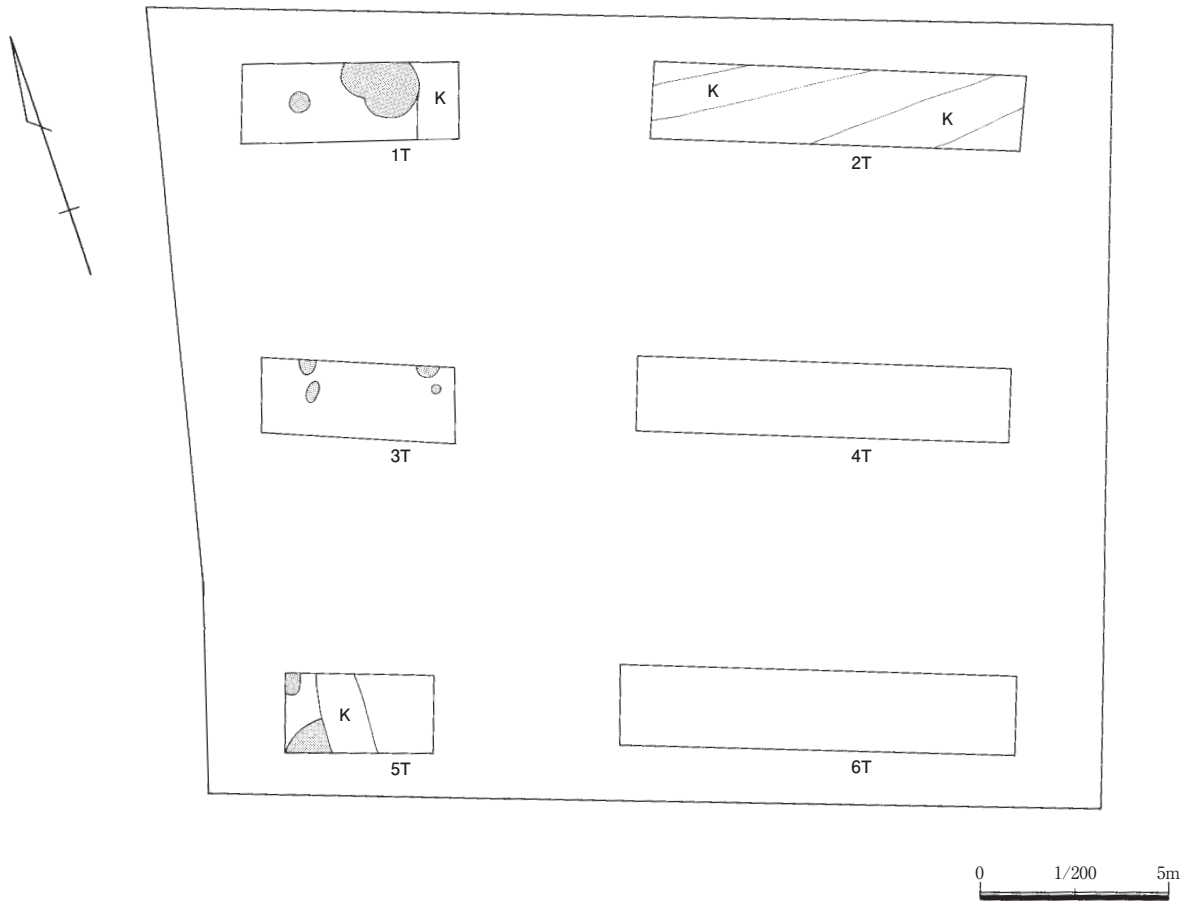
トレンチを任意に6本設定した。最初に重機によって表土を除去し、遺構確認作業を行った。その後、トレンチの全景写真及び遺構検出状況写真を撮影し、敷地境界杭を基準に平板測量によりトレンチ配置図（縮尺 1/100）を作成した。

第3節 検出した遺構と遺物（第18・19図、図版5・7）

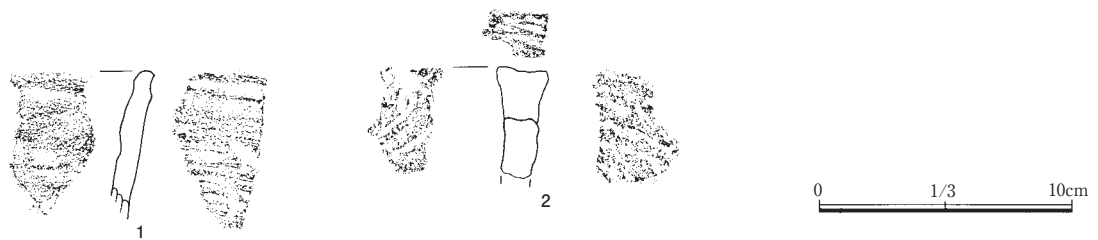
縄文時代土坑が9基検出された。調査区北東側は攪乱を受けている。遺物は縄文土器が出土した。



第17図 船尾貝塚位置図（S=1：2,500）



第18図 船尾貝塚トレンチ配置図 (S=1:200)



第19図 船尾貝塚出土遺物 (S=1:3)

第6表 船尾貝塚出土遺物観察表

掲載No	器種	法量 (cm)	手法上の特徴等	胎土	色調	焼成	備考
1	縄文土器 深鉢	-	口唇部面取りにより内削ぎ状。外面は横位の浅い貝殻条痕文。指頭による調整が認められる。	石英・長石粒子多	赤褐色	良	胴部 茅山上層式
2	縄文土器 深鉢	-	口唇部に台形状の突起を有する。波状部に貝殻による調整が認められる。外面は貝殻腹縁部の浅い刺突を横位に施す。内面は斜位貝殻条痕文。	石英・長石粒子多	にぶい赤褐色	良	胴部 茅山上層式

第7章 まとめ

向新田遺跡(第4地点2・3・4次)

令和2年度の確認調査で検出された住居跡である。2号住居跡は攪乱により大きく改変されているが、1号住居跡はカマドの袖を含め残存状態は良好であった。出土した多数の遺物は坏と甕の形態から9世紀第3四半期のものと判断される。また、遺構外ではあるが灰釉陶器が1点出土していることから、本遺跡の年代としては過去の調査で指摘されている古墳時代に加え、今回調査した奈良・平安時代のほか、中世の遺構が存在するものと考えられる。

弁天前遺跡

今回の調査が本遺跡初の調査となった。遺構等の検出はなかった。出土遺物も少量に留まる。しかしながら、掲載外となった遺物のなかには中近世の陶磁器と瓦が含まれ、周辺の遺跡には船尾白幡遺跡のように長期にわたり存続した遺跡もみられることから、中世遺構が今後の調査によって検出される可能性がある。

堀尻台遺跡

今回が本遺跡初の調査となった。遺構等は検出されなかった。遺物は縄文土器、古墳時代埴輪のほか、中近世の陶磁器・銭貨が出土している。特に、大量に埴輪が出土した大木台2号墳が近接することから、古墳時代の資料が今後も確認されるものと推定される。

原東遺跡

今回の調査が本遺跡初の調査となった。遺構等の検出はなかったが、遺物は掲載外のものとして縄文土器と中近世の陶磁器が出土しており、周辺のトヶ前遺跡や馬見台遺跡からも縄文時代遺構が検出されている。

船尾貝塚

今回の調査が本遺跡初であり、土坑が9基検出された。調査区西側は攪乱の影響を受けており、東側に遺構が集中している。台地先端にかけて集落および貝塚が分布する可能性が考えられる。出土した土器片はいずれも茅山上層式であり、縄文時代早期の集落が存在する可能性がある。

参考文献

- (財) 印旛郡市文化財センター 1992 『トヶ前遺跡発掘調査報告書』
- 印旛村 1988 『岩戸広台遺跡A地区・B地区発掘調査報告書』
- (財) 印旛郡市文化財センター 2004 『油免遺跡(第2地点)』
- 印西市教育委員会 2015 『平成25年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
- 印西市教育委員会 2017 『平成27年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』
- 印西市教育委員会 2022 『令和2年度 印西市内遺跡発掘調査報告書』

写真図版



向新田遺跡 調査前風景 (南から)



1号住居跡 遺構検出状況 (南西から)



1号住居跡 セクション (東から)



1号住居跡 完掘状況 (南から)



1号住居跡A-A' セクション (東から)



1号住居跡A-A' セクション (東から)



1号住居跡B-B' セクション (南から)



1号住居跡B-B' セクション (南から)



2号住居跡 遺物出土状況 (南西から)



2号住居跡 遺物出土状況 (南西から)



2号住居跡 遺物出土状況 (西から)



2号住居跡 完掘状況 (南から)



弁天前遺跡 調査前風景 (南西から)



2号トレンチ (南西から)



4号トレンチ (南西から)



埋戻し後 (西から)



堀尻台遺跡 調査前風景 (南から)



調査前風景 (南西から)



作業風景 (北から)



1トレンチ (南から)



2トレンチ (南から)



3トレンチ (南から)



3トレンチ (南西から)



4トレンチ (南から)



原東遺跡 調査前風景 (北東から)



1トレンチ遺構検出状況 (西から)



2トレンチ (南から)



3トレンチ (南から)



6トレンチ (南から)



8トレンチ (南から)



9トレンチ (南から)



11トレンチ (南から)



船尾貝塚 調査前風景 (西から)



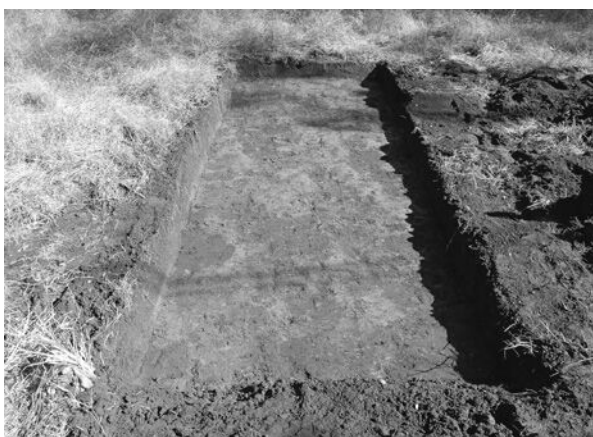
重機稼働状況 (西から)



1トレンチ (西から)



2トレンチ (西から)



3トレンチ (西から)



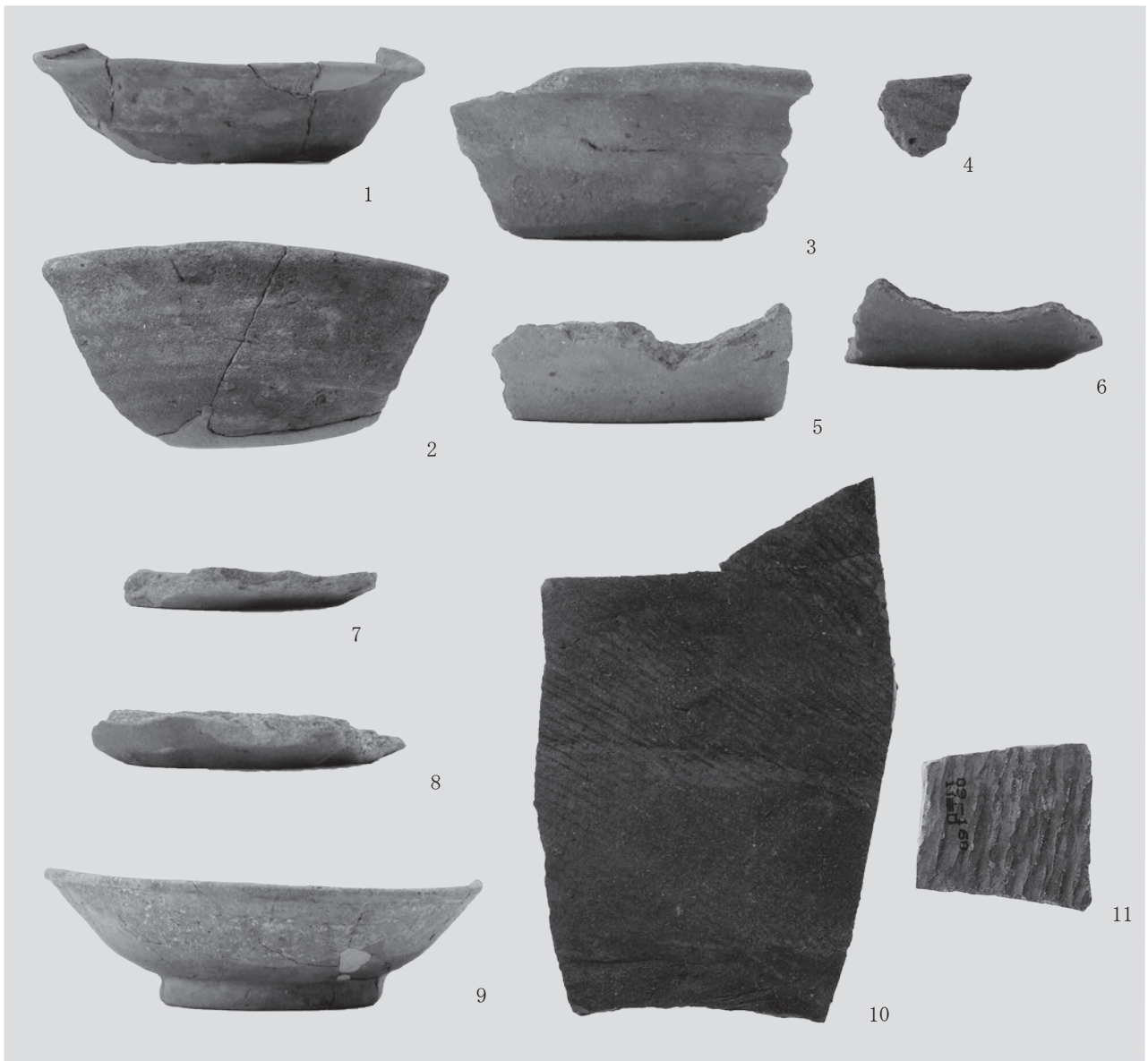
4トレンチ (西から)



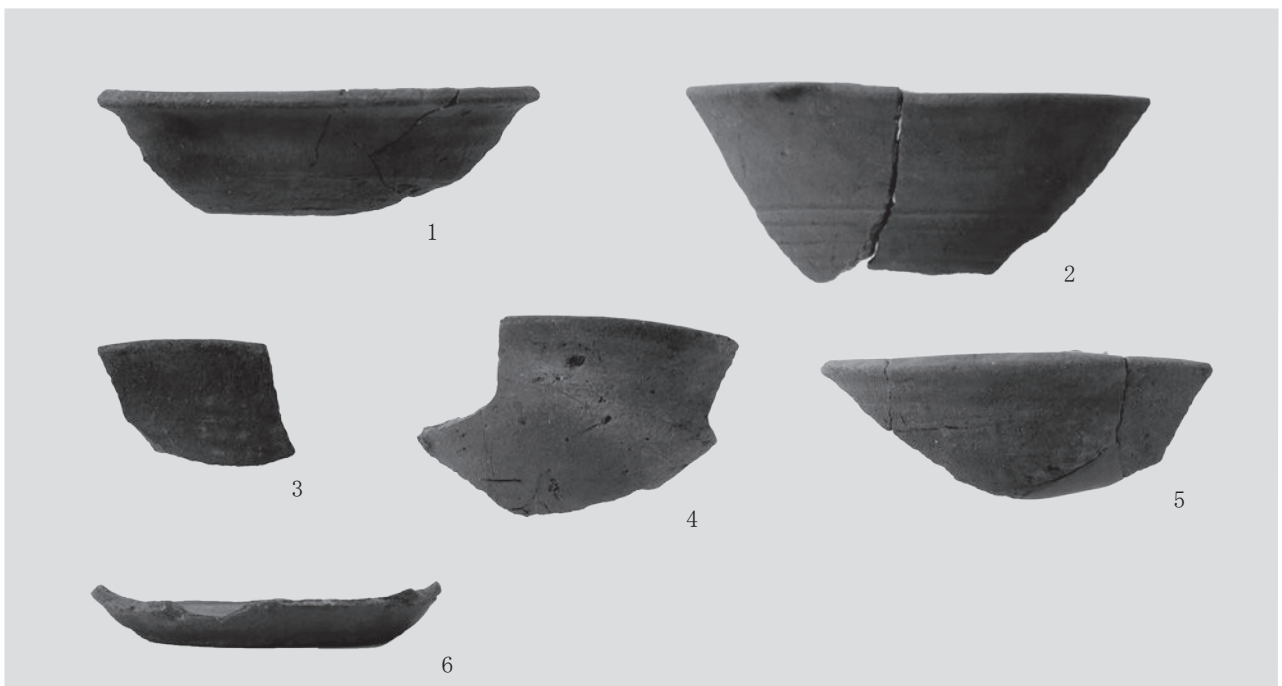
5トレンチ (西から)



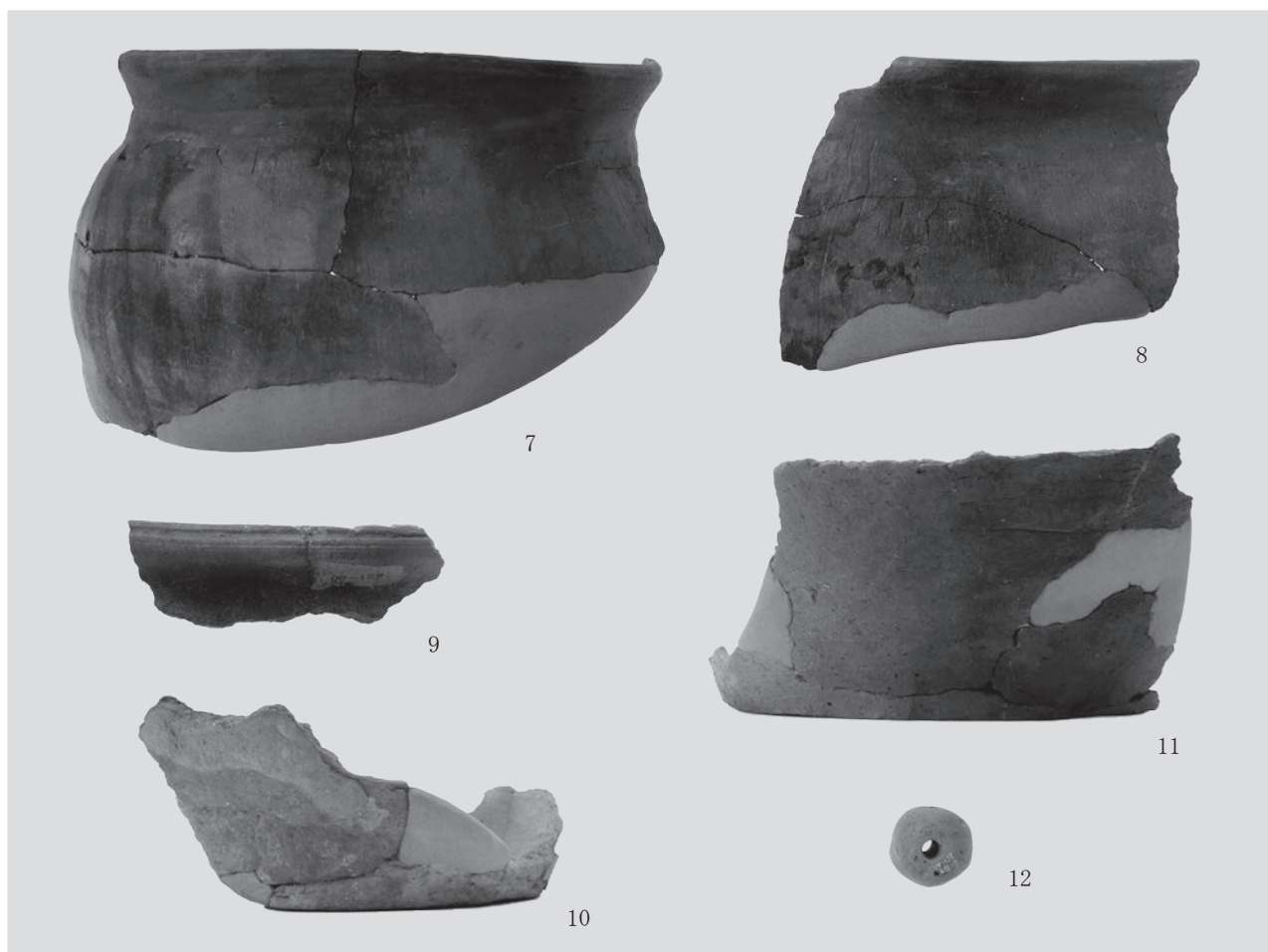
6トレンチ (西から)



向新田遺跡1号住居跡出土遺物



向新田遺跡2号住居跡出土遺物(1)



向新田遺跡2号住居跡出土遺物(2)



向新田遺跡表採遺物



船尾貝塚出土遺物

報告書抄録

ふりがな	れいわさんねんどいんざいしなしいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	令和3年度印西市内遺跡発掘調査報告書							
編集者名	大村冬樹							
編集機関	印西市教育委員会 教育部 生涯学習課							
所在地	〒270-1396 印西市大森2364-2 TEL.0476-33-4714							
発行年月日	西暦2023年3月 日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
むかいしんでんいせき(だい4ちてん2じ) 向新田遺跡(第4地点第2次)	いんざいしむざいあざむかいしんでん222-8 印西市武西字向新田222-8	122319	09-158	35°47'13" (35.7868)	140°6'32" (140.1089)	平成33年4月20日	本調査 41.65㎡	個人住宅建設に伴う 本調査
むかいしんでんいせき(だい4ちてん3じ) 向新田遺跡(第4地点3次)	いんざいしむざいあざむかいしんでん222-5 印西市武西字向新田222-5	122319	09-159	35°47'12" (35.7867)	140°6'32" (140.1090)	令和3年4月21日 ～4月22日	本調査 90.2㎡	個人住宅建設に伴う 本調査
むかいしんでんいせき(だい4ちてん4じ) 向新田遺跡(第4地点4次)	いんざいしむざいあざむかいしんでん222-10 印西市武西字向新田222-10	122319	09-160	35°47'12" (35.7866)	140°6'32" (140.1090)	令和3年4月23日	本調査 86.97㎡	個人住宅建設に伴う 本調査
べんてんまえいせき 弁天前遺跡	いんざいしそふけあざべんてんまえ1007-2、 1007-3のかくいちふ 印西市草深字弁天前 1007-2、1007-3の各一部	122319	09-161	35°48'9" (35.8025)	140°8'40" (140.1444)	令和3年7月12日	確認調査 上層25㎡/ 221.27㎡	個人住宅建設に伴う 確認調査
ほりじりだいいせき 堀尻台遺跡	いんざいしせとあざほり じりだい748-1のいちふ 印西市瀬戸字堀尻台748-1 の一部	122319	09-162	35°46'45" (35.7791)	140°12'51" (140.2143)	令和3年8月24日	確認調査 上層37㎡/ 474.77㎡	資材置場工事に伴う 確認調査
はらひがしいせき 原東遺跡	いんざいしそふけあざ はら2488、2489 印西市草深字原2488、 2489	122319	09-163	35°47'41" (35.7949)	140°9'16" (140.1546)	令和3年9月30日 ～10月6日	確認調査 上層162㎡/ 1307.88㎡	宅地造成工事に伴う 確認調査
ふなおかいつか 船尾貝塚	いんざいしふなほ1218-2 印西市船穂1218-2	122319	09-164	35°46'55" (35.7818)	140°7'56" (140.1321)	令和3年11月10日 ～11月12日	確認調査 上層60㎡/ 496.59㎡	宅地造成工事に伴う 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
向新田遺跡(第4地点第2次)	集落跡	縄文時代、奈良・平安時代		奈良・平安時代竪穴住居跡1軒		奈良・平安時代土師器・須恵器、中近世陶磁器		4次調査と隣接
向新田遺跡(第4地点3次)	集落跡	縄文時代、奈良・平安時代		奈良・平安時代竪穴住居跡1軒		縄文土器、奈良・平安時代土師器・須恵器・土製品、中近世陶磁器		4次調査と隣接
向新田遺跡(第4地点4次)	集落跡	縄文時代、奈良・平安時代		奈良・平安時代竪穴住居跡2軒		縄文土器、奈良・平安時代土師器・須恵器		2・3次調査と隣接
弁天前遺跡	包蔵地	縄文時代、中近世		なし		中近世陶磁器・瓦		特になし
堀尻台遺跡	包蔵地	縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世		なし		縄文土器、古墳時代埴輪、中近世陶磁器・銭貨		一部保存
原東遺跡	包蔵地	縄文時代		なし		縄文土器、中近世陶磁器		特になし
船尾貝塚	貝塚	縄文時代		縄文時代土坑9基		縄文土器		一部保存

令和3年度
印西市内遺跡発掘調査報告書

令和5年3月10日 印刷
令和5年3月17日 発行

編	集	公益財団法人印旛郡市文化財センター 千葉県佐倉市春路1-1-4
発	行	印西市教育委員会 千葉県印西市大森2364-2
印	刷	株式会社 エリート情報社 [印刷出版局] 千葉県成田市東和田415-10

